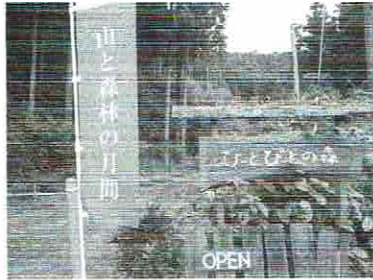


HOTNET PRESS

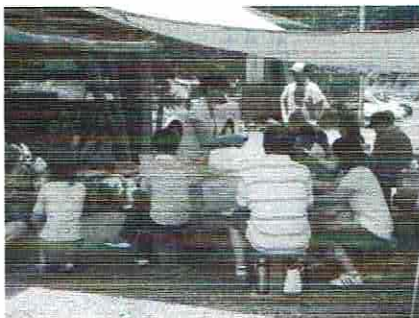
2011.11.20 第 109 号
特定非営利活動法人ほっとねっと
理事長 伊藤満
〒630-8301 奈良市高畑町 1202-7
TEL&FAX 0742-94-6800
Email npohotnet@yahoo.co.jp
http://d.hatena.ne.jp/hot-net/



山と森林の月間参加イベント 夏休みの「ひーとびーとの森」

7月24日、31日木工工作、8月7日飯ごう炊さん

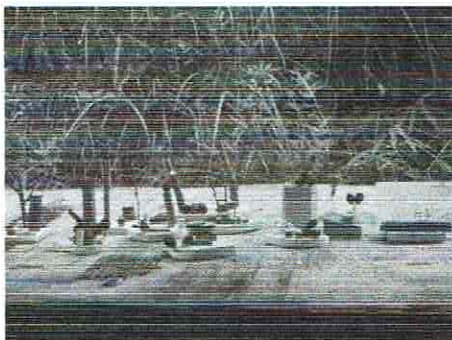
今年も大勢にきていただきました！



昨年大好評だったので、今年の夏休みは3日間プレイパークの設定をしました。7月24日と7月31日は、森の

中から実際に探してきてもらって、スギ、ヒノキの香り、肌触りなどを感じ、おもちゃにして遊びました。そして昔から人間が共存してきた

木と森について講師の林田弥生先生から説明を受けた後、根付けや写真たてをつくりました。



8月7日はなんととっても人気のキャンプ講習。昨年楽しかったからと、今年も友達ファミリー数組と一緒に来ていただいた方も。今年思い切って上のアスレチック部分に道具を持ち込んで、薪割りや飯ごう炊さんを。昨年よりもぐんと森の中でのキャンプという雰囲気味わっていただけたのではないかと思います。



今年には特に障害を持つ子どもさんや、家に重度



の障害を持つ兄弟がいてなかなか外に遊びに行くことができなかった親子などのご参加があって、久しぶりの外での集団遊びに喜んでいただきました。

同じく8月7日、今年もアプリコットファミリーに来ていただき賑やかな面々によりミニ菜園ができあがりました。



水平社博物館 ガイド研修

水平社博物館ガイド仲間の自主研修が4月以降、10月までに4回開催されています。6月、7月は博物館の学芸員・駒井忠之さん、

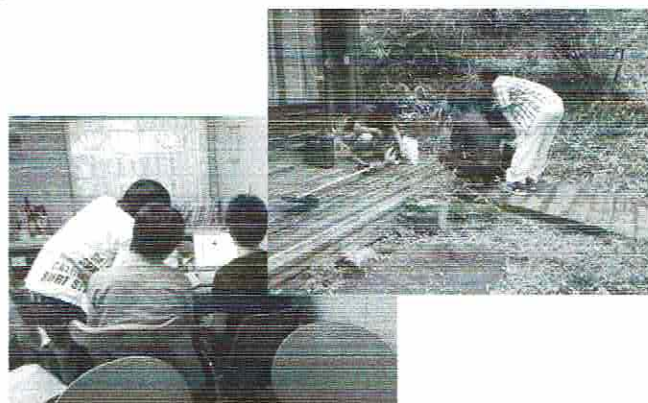


仲林弘次さんに講師をお願いしました。駒井さんには、以前特別展でも取り上げられた衡平社について講義していただきました。ありがたかったのは朝鮮半島の地図や年表類など非常にわかりやすい資料を提供していただいたこと。水平社との関係以前に、水平社とほぼ時を同じくして、同じ思いの運動が海を越えてどのように展開されたのか視覚的に知ることができたのはガイドにとって明日からの実践に役立てられるもの。水平社と同じく内紛の苦悩を空間的につかむことができました。仲林さんからは草場権や神社との関係など近世以前の歴史的なことをやはり地理的な条件から教えていただき納得。また「同和」対策事業や地区改良事業など博物館が建つ直前までの運動の歴史を講義とフィールドワークで丁寧に解説していただきました。

(この後仲林さんは博物館をご退職。今までお世話になりました)

10月、11月は外部の専門家を招いて講習です。充実の内容は次号で共有させていただきたいと思います。

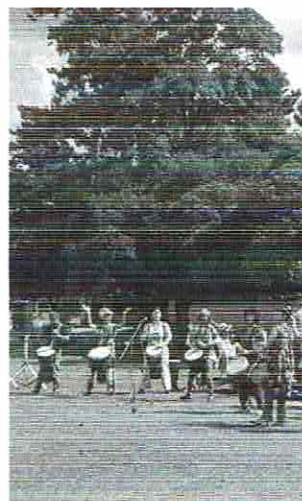
高校生インターンシップ受け入れ



夏休み中に奈良朱雀高校から情報工学科2年の3人をインターンシップ生として受け入れました。講演の要約筆記の前日準備と当日操作、ひとびとの森でのイベントやメンテナンス作業を手伝ってもらいました。

さよなら原発 1000 万人アクション

9月11日、nara-action 実行委員会主催による脱原発アクションパレードと集会がJR奈良駅前広場→三条通→奈良公園で開催されました。ともにパレードしたジャンベ演奏のオープニングの後は県議員や宗教者らから放射性物質に汚染



された瓦礫の県内への受け入れ反対表明や、被災地から移動してきた出産間近の妊婦から「子どもの、日本の未来を考えてほしい」などのメッセージ、市民団体の代表者によるシンポジウム、そして最後は「持続可能な社会を構築するために立ち上がろう。原子力発電にさよならしよう」との「奈良脱原発宣言」で締めくくられました。

菜の花プロジェクト・菜種刈り取り後



5月下旬の菜種刈り取り後、田原本北小学校5年の皆さんによる脱粒。夏の間は田んぼ、一部はアマランダスと

いう雑穀と葛の試験栽培を行いまいした。夏場の田んぼの草刈りと稲刈りに大活躍してくれたのは、今年も磯城野高校の生徒さんと青少年自立援助センターブルームの訓練生の皆さん。



多様性ワークショップ、出前中！

奈良県から委託を受けている「人権研修の教材等開発事業」。昨年度作成した「違いを豊かさとして認め合う、多様性尊重」啓発リーフレットとプログラムを活用して学校、フリースクール、地域の人権研修など人が集まる



場所ならどこへでも行かせていただいています。

◆ワーク・ライブ・バランス ◆セクハラ予防講座◆職場のコミュニケーションアップ◆地域で外国人と暮らす ◆身近なジェンダーに気づこう◆虐待をみんなで防ぐ



◆森のワークショップでほっこりしよう◆夢の履歴書づくり (お互いを知って



地域をつくる) ◆地域にみんなのお城を作る (公民館・空き教室などの利用を考える)・・・

など。

参加者の皆さんからは「自分を振り返るよい機会になった」「コミュニケーションが円滑にできるようになれそう」などご好評をいただいております。

年度末まで、まだまだ多くの場所へ多様性尊重ワークショップの出前に行きたいと思っておりますので、受け入れをご検討くださる方は別紙の用紙でのお申込をお待ちしております。



ええやん、奈良祭り！

11月6日、道の駅 大和路へぐりで奈良県中小企業家同友会主催の交流イベントに多様性ワークショップのPRのため、カラーセラピーとストレスチェックを試してもらおうブ

ースを出展しました。来場者にお試しワークが思いのほか好評だったことと、出店者同志で意気投合し、今後の連携の模索も始まったことが収穫でした。



奈良県自転車利用促進コンソーシアム

NPO 法人奈良ストップ温暖化の会、奈良県、奈良市、生駒市、斑鳩町、奈良交通、ならコープと



ほっとねっとは、マイカー通勤から自転車通勤への転換を促進するための、NPO、企業、行政による共同事業体「奈良県自転車利用促進コン

ソージアム」の一員となっております。

10月24日、第



1回会合が開かれました。温暖化防止と交通渋滞解消、そして観光振興策にもつながるハッピーなアクションに参加したいと思っております。11月ー1月の3ヶ月間、奈良県内を25台の「イソラ」という7段ギアの高機能自転車です。寒い季節の実践となります。計測器をつけたこの自転車を見かけたらご声援をお願いいたします。

野次馬情報 掲示板



被害者たちは生きた歴史 ～日本軍「慰安婦」問題解決のために～

1992年1月8日から、毎週水曜日の正午、韓国の日本大使館前で開かれてきた韓国水曜デモは、2011年12月14日、1000回を迎えます。20年間続けられてきた水曜デモは、世界最長ギネス記録を持つデモです。日本軍「慰安婦」被害者たちと支援者は、雨の日も、風の日も、酷暑の日も、極寒の日も休むことなく、日本政府に対して、真相究明、公式謝罪、国家賠償、責任者処罰などを求めて、訴えを行ってきました。水曜デモが20年間続けられてきたということは、日本政府の誠実な対応が何ら行われてこなかったということです。

日本軍「慰安婦」制度とは、性病の蔓延、日本軍兵士による強姦事件、軍機密の漏洩防止などのために設けられました。被害者となったのは植民地であった朝鮮、台湾の女性たち。中国の女性たち、日本軍占領地だったフィリピン、インドネシア、等々たいへん広範囲で、日本の女性たちもいました。

自らの被害を公にされたのは、1991年韓国の金学順（キムハクスン）さんが最初でした。奈良でも、1991年12月14日、金学順さんの証言をきく集いが開催され、県解放センターの大研がいっぱいになるほどの人が集まりました。金学順さんの苦衷の証言を聞くことで、「慰安婦」問題は、平和の問題であり、女性の人権の問題であると感じられた方も多いと思います。金学順さんは1997年に亡くなり、韓国では自らの被害を名乗り出られた234人のうち、生存者は67人となりました。敗戦後66年、解決をめざす私たちに残された時間はあとわずかです。

【韓国水曜デモ 1000回アクション】

1000回を迎える今年「日本軍『慰安婦』問題解決全国行動2010」が中心となり、韓国の運動とも連帯しながら、リーフレットやキルト作り「慰安婦」関連映画週間等々が計画されています。関西でも、「女性に対する暴力撤廃国際デー」の11月25日から12月にかけて、コンサート、映画上映会など、多彩なとりくみを展開、12月14日には1000回記念キャンドルデモコンサートを大阪扇町公園でひらきます。

奈良でも、12月3日午後（チラシを参照ください）金学順さんの証言集会のあった県解放センターで、ドキュメント映画「終わらない戦争」の上映会を開催します。

【あらゆる暴力を許さないために】



昨年活動の様子

日本の戦争によって人権と尊厳を奪われ、「若い人たちを自分たちと同じ目に遭わせたくない」という思いで名乗り出られた被害女性たちが、日本政府の誠実な対応を目の当たりになさることなく、一人、また一人とこの世を去ってゆかれます。残された私たちは、人生を奪われた被害女性たちの思いに少しでも応えるために、今なお世界の戦場や紛争地で被害を受け続けている女性たち、DVや性暴力に苦しめられている女性たちとも連帯しながら、日本軍「慰安婦」被害女性たちの人権を奪い返し、戦争と暴力をなくすための運動をすすめていきます。

みなさんも、関心をもって、ともに歩んでくださるようお願いいたします。

(松村徳子)